

中学生議員登壇！

中学生が町政を問う



12月18日に多古中学校2年生による模擬議会が行われました。政治を身近なものに感じるとともに、町議会や行政、町民が果たす役割について理解を深めようとするもので、12名の中学生議員が登壇し、日頃感じていることについて一般質問を行いました。その内容を要約してご紹介します。

① 若者の投票率を上げる工夫は

阿部 柚乃さん

問 選挙権が18歳に引き下げられたにも関わらず、投票率は低下の一途をたどっています。投票率向上のためどのような取り組みをしていますか。

答 中学生議会や選挙啓発作品の募集、選挙講習会、新成人への選挙啓発を行っており、若い方が選挙、政治に興味を持ってもらうことが重要であると考えています。(総務課 庶務係長)

② 予防接種助成対象者の拡大を

越川 湊さん

問 町ではインフルエンザの予防接種の助成金の対象が生後半年から小学2年生までとなっています。他市町村では小学3年生まで対象となっているところがありますが、町は同様の範囲まで対象者拡大はできないのでしょうか。

答 町では、多古中央病院と調整をしながら、特に重症化のリスクが高い生後6カ月から小学2年生までと妊娠中の方が予防接種を希望した時に確実に接種できるように、助成対象としました。(保健福祉課 健康づくり係長)

③ 安全に登下校できる町に

山田 風さん

問 多古第一小学校前の坂の歩道にびびが入っています。そのびびでつまずいたり、転んだりしている人をよく見かけるので、町民の安全のために修繕してほしいです。

答 町では、特に重症化のリスクが高い生後6カ月から小学2年生までと妊娠中の方が予防接種を希望した時に確実に接種できるように、助成対象としました。(保健福祉課 健康づくり係長)

④ 町としての経済対策は

行方 敬祐さん

問 成田空港と町の関係性は非常に密接しています。今後もコロナの影響で国際線の便数の低下などにより、成田空港の利用者数の減少が続いた場合、町としてはどのような経済対策を行っていくのでしょうか。

答 中小企業に対する応援金給付や18歳までの子供がいる家庭を対象とした家族の輪応援商品券支給事業など、町内事業者の支援を行っています。(企画空港政策課 空港地域振興係長)

⑤ 自然災害への取り組みは

柳下 真穂さん

問 近隣の市では法枠工や擁壁工を活用した土砂災害の対策をしていることを知りました。町もこのような方法で災害対策をしてほしいと思います。ご検討をお願いします。

答 公共用地である場合は、様々な斜面の整備手法を状況に合わせて活用して対策を行っています。私有地である場合は、緊急的に町や県などが対応することもありますが、原則として、所有者の方に対応をお願いすることとなります。(都市整備課 建設係長)

模擬議会を終えて

宮内 進 校長

中学生議員の素朴な疑問や提言に対して、執行部の皆さんは真摯に、そして優しく回答してくださいました。「地方自治は、民主主義の学校」と言われるほど、私たちの生活に密接な関わりがあります。議会体験をした13名はもちろん、オンラインシステムを活用し、学校で傍聴をした生徒も、緊張感と温かさを実感できたはずで、歴史ある多古町議会における今日の体験は、政治や経済への関心を高めるきっかけになったと信じています。

〈謝辞〉

議会についてのマナーや進め方など、実際の様子を見られる、体験できるということはとても貴重なことだと改めて思いました。議長という役割を通して、円滑に進行することの難しさを実感すると同時に、多古町議会の重要性を学ぶことができました。自分たちを支えてくれたり、方々のためにも様々なことに取り組み、励んでいこうと思います。



中学生議会
議長
飯田 紗 さん

⑥ 学習サポートは

岩畑 悠さん

問 今後、児童生徒全員にタブレットが配布されることですが、オンライン授業や調べ学習、学習サポートを利用する際に回線は機能するのでしょうか。

答 令和3年2月末までに、教室にアクセスポイントを追加し、高速対応の配線整備を行うことにより、タブレット端末がスムーズに活用できるように計画しています。(学校教育課 学校教育係長)

⑦ 町民全員が住みやすい町に

富山 瀬那さん

問 町の中心部に多くの商業施設が集まっており、中心部以外の格差が生じています。そこで、中心部以外に住む高齢者が気軽に買い物へ行けるよう支援してほしいです。

答 町内3ルートを運行する循環バスや道の駅多古と成田空港第2ターミナルを結ぶ空港シャトルバス、また高齢で運転できない方などを対象としたデマンドタクシーを運行しております。(企画空港政策課 企画政策係長)

⑧ 安全に生活できる町に

晴山 えあきさん

問 町民が安全に生活できるように、街灯と路面の整備、またバスの時刻修正はできないのでしょうか。

答 防犯灯は地域の方のお話を伺いながら適正な場所に設置してい

⑨ 常磐小の再利用を

鈴木 悠斗さん

問 令和2年閉校となった常磐小を人々が交流できる居心地の良い場所として再利用してほしいです。

答 関係各所と協議しており、具体的な活用方法については、まだ決まっておりませんが、様々な事例を参考にして検討していきます。(地方創生課 地方創生推進係長)

⑩ 高齢者への支援は

飯田 悠野さん

問 コロナ禍により、各地区の集会所などを活用して行う健康維持活動が中止されています。今後このような状況が続いた場合、高齢者に対して、どのような支援や対策を考えていますか。

答 町では、高齢者一人一人個別でも感染症の動向に注意しながら、必要な支援や対策を行っていきます。(保健福祉課 包括支援係長)

⑪ 多古米PRへの取り組みは

並木 日向花さん

問 多古の農業を活気づけるには多古米のさらなるPRが必要だと考えます。そこで多古米を使った「米粉料理グランプリ」を開催し、優勝した料理を新たな名物にしていくことで、知名度が増すのではないのでしょうか。

答 多古米の米粉を使用した商品を開発し、販売する取り組みは魅力発信や食料自給率の向上、水田を守ることに繋がります。今後も6次産業化の支援の充実を図っていきます。(産業経済課 農業振興係長)

⑫ もう一度来たいと思う町に

平山 由唯さん

問 歴史的観光名所は町の中心部以外に多くありますが、中心部以外には観光客が立ち寄りやすいお店が少ないように感じます。リピーターを獲得するためには、町の中心部以外の個人経営者に支援金などの支援策を講じていくことで、新たな観光産業が生まれるのではないのでしょうか。

答 多古町の観光について、令和元年12月にシンポジウムを開催しました。意見交換やアンケート結果をもとに、今後は観光事業を推進するためのアクションプランを作り、実践する組織を設立して、観光による町づくりに基盤形成をしていきます。(産業経済課 経済振興係長)